

政策創造学ニューズレター

(愛称：テルマエ通信)

創刊にあたって

この度、当大学院の研究活動を広く一般にお伝えするために、定期的な広報誌「政策創造学ニューズレター(愛称：テルマエ通信)」を創刊いたしました。今後、メールマガジンを通じての配信を中心に日々の研究活動をご紹介します。

このニューズレターは在学生有志で構成された編集委員の取材・運営になりますが、その主な目的は以下の3つです。

1. 多分野にわたる当大学院の研究活動の動向を広く学外に発信すること(広報目的)
2. 地域社会に広く点在する情報英知を集約・統合して記録していくこと(記録目的)
3. 多分野・多地域で活躍する人々の知的遭遇を創出していくこと(創場目的)

さて、ニューズレターの名称に使った「テルマエ」とは古代ローマの公衆浴場のことです。風呂好きなローマ人は1日の数時間をここで過ごしたそうですが、エクサ

サイズに汗を流しては湯につかり、きつと人生哲学についても語りあったことでしょ。大学院という存在も、もはや特定の知識層のためだけではなく、広く社会一般に開かれたものとなりつつあります。当大学にも高度な専門知識の習得だけではなく、社会における問題意識を胸に学び直しにやってくる方々も増え、まさに智慧という汗をかきつつ知的リフレッシュを行う場として新展開しています。こうした多分野の人材の知的活動を広く世に伝え、その活動記録を積み重ねつつ、更に新たな人材の集う場として役立てて行きたいと思えます。

また編集方針は、地域活性化を担う人材の資質である「よそ者、若者、バカ者」精神で望みたいと思います。それは革新的であること(よそ者)、行動的であること(若者)、持続的であること(バカ者)ということ。自由奔放な視点での取材・編集活動を、体を張って地道に続けるということです。そこそが持続可能で革新的な政策研究を目指す我が大学院のあるべき姿だと思えます。どうぞ知的な風呂に浴びる気楽な気分でご笑覧のほどお願い致します。(鈴木美伸)

シンポジウム参加記(2010年1月9日)

「キャリア・アセット・マネジメント キャリアはどう統合されるべきか」

コーディネータ

諏訪康雄(政策創造研究科・教授)

講演者

田口力(GEグローバル・ラーニング)

ロトンビル・リーダーシップ・ジャパン

マネージャー)

パネリスト

今野浩一郎(学習院大学経済学部教授)

金子庸子(東京都監査委員・元資生堂監査

役)

高度経済成長を背景とした20世紀は「雇用が財産」であったが、個人の自立が求められる21世紀は「キャリアが財産」の時代となった。これまで個人のキャリアは終身雇用慣行のもと、企業が安定的に運用してくれていたが、今世紀になって個人のキャリアは自らその価値を再認識し、自らの意思と責任で統合的に運用していかなければならなくなったのである。そうした社会背景のなか、本シンポジウムでは個人のキャリア形成支援について一日の長のある米国のリーディング・カンパニーであるGEの事例について基調講演を戴き、今後の日本社会における個人のキャリア・アセット



コーディネータ：諏訪康雄教授



パネリスト：金子庸子氏



パネリスト：今野浩一郎氏



基調講演：田口力氏

(資産)運用を、各方面の識者によるパネルディスカッションを通じて俯瞰した。

最初の田口氏の基調講演では、GEのキャリアの考え方を紹介戴いた。GEでは社員全員がリーダーであることを求められ、リーダーシップ開発とキャリア開発を車輪の両軸として自己の成長を図っていくこと、キャリアを決めるのは上司ではなく自己の成長は自分自身が責任を持つこと、そのためには自身のキャリアを適切に棚卸し外部環境が自己に何を求めているかを把握したうえで「パーソナルブランド」を確立することが求められている。一方で、田口氏自身がGE入社以前の経験とGEでの豊富な経験とを上手に折り合わせてきたキャリア統合の流れも興味深かった。

次の討論では、諏訪教授からキャリア統合を進めていくことの重要性が提起された。これを受けて今野氏は、正社員と多様な雇用形態の労働者とが併存する労働市場において、共通的な人事管理システムの必要性という企業側の人事労務・人材育成の課題を指摘した。金子氏は、女性のロールモデルが存在しなかった状況の中で、いかに自身のキャリアを切り開き、また後輩となる人々にいかに影響をあたえてきたかを、自らの体験を元に語りながら、個人側のキャリア運用の姿勢と重要性を主張した。

討論の後半では諏訪教授から美術館が膨大な収蔵品の中からテーマに沿った収蔵品

のみを選択して展示している例に喩え、人生の折り返し点以降のキャリアにおけるキャリア資産の意味づけ、相互の関連づけの意義が提起された。これを受け、パネリストからは、個人のキャリア資産を上手く運用するには、それを外部に発信してパーソナル・ネットワークを広げること、更に資産追加の努力を継続することが回答された。

確かに、個人のもつ個々の経験という資産は、ガラスケースに並べて個別バラバラに見ていくは陳腐化するばかりである。しかし、新しい時代の流れというメガネとチャレンジ精神というブラシを用いて、拾い直し、並べ直し、磨き直してみれば、その資産も新たな価値の光を発することだろう。

(鈴木美伸)



シンポジウム会場風景

シンポジウム参加記(2010年1月16日)

「歴史的ストックの活用のいま」

司会

恩田重直(政策創造研究所・講師)

講演者

赤松加寿江(東京藝術大学・助手)

山口尚之(建築家 一級建築士事務所タステンアーキテクト主宰)

池田浩大(株式会社トールン・代表取締役)

戦後日本は、スクラップ・アンド・ビルドを繰り返してきた。近年、歴史的ストックを積極的に活用しようとする動きがでてきたとはいえ、まだ手探りの段階である。そこで、本シンポジウムではこれからの歴史的ストックの活用の方について、いまをときめく講師陣に最前線の講義をしていただいた。

はじめに、赤松氏の講演、「鎌倉における歴史的ストックの現状と活用事例」は実体験にもとづいた事例紹介を通じて、現在の歴史的建造物の保存や活用の問題を浮かびあがらせた。赤松氏の設計事務所は、鎌倉市景観重要建造物に指定された昭和初期の洋館である。建物の一部を一般開放し、イベント空間としても活用している。



講演者：池田浩大氏



講演者：山口尚之氏



講演者：赤松加寿江氏

また、文化財指定には至らないものの、ま
ちなかに存在する数多くの建築たちを「B
級建築」と名付け、その価値についても触
れた。これからは、「B級建築」の再生・
利活用が面的な都市空間の保存につな
がり、用途地域の問題など法的な緩和によ
つてその可能性が広がると示唆した。

次に、山口氏からは、中山間地域の地域
資源である木造校舎を利活用し、地域づく
りのきっかけとなった「八尾スローア
ート」の実践報告をしていただいた。雛
形にもとづいて戦後に建てられた木造校舎
もまた、「B級建築」であると指摘する。
アートをきっかけとして地域住民が積極
的に使うという発想でもって、地域に新しい
価値を生み出していくことが求められてい
るといふ。

最後に、東京の芝浦で倉庫業を営む池田
氏には、「東京芝浦における倉庫の活用」
というテーマで、倉庫の様々な活用事例を

紹介していただいた。ここでは、リノベ
ション・リニューアル・リサイクルとい
った考え方を包括的に盛り込んだ活用を
「RE・倉庫」と定義し、次世代の倉庫の在
り方が示された。それは、本来の機能を果
たさなくなった倉庫を、オフィスやダン
ス・スタジオなどのマーケットニーズに対
応した使い方に更新するという事例であ
った。また、「B級建築」に対しては、マイ
ナスイメージをとまなうB級よりも「ピン
テージ」として積極的に価値づけていくこ
とが提案された。倉庫は構造的に強く、都
心に立地するうえに経済的にも安価である
ことから、今後、倉庫を活用した「RE・倉
庫」の幅は広がるであろう。

このように、利活用の可能性を大いに秘
めた「B級建築」に、新たな価値を見出し
ていくことが、都市再生や地域活性化の可
能性を広げてくれるに違いない。

(樋渡彩)

研究会参加記(2010年1月16日)

「人口オーナス下の地域」に関する研究会
「地域から人口減少を考える」

第七回テーマ

特別調査結果報告「オーナスリスクマネジ
メント～あんだ、どうすんのよ～」

報告者

雇用政策プログラム諏訪研究室学生4名
コーディネーター
諏訪康雄教授(政策創造研究科)

今後日本は少子高齢化にともなう人口
オーナスの時代に直面することになりま
す。「人口オーナス」とは、少子高齢化に
より人口構造が変化し、人口に占める生産
年齢人口(15歳～64歳)の割合が縮小するこ
とによって、日本の社会保障・経済システ
ムに負荷がかかった状態になることをい
います。本研究会は小峰隆夫教授(政策創造
研究科)主催のもと、地域の視点から人口
オーナスを考えていきます。

これまで、本研究会では過疎・山間地域
の地方自治体関係者や地域の企業経営者、
シンクタンクなど様々なゲストにお越し
いただき講演を行っていただきました。第七
回目を迎えた今回は、特別調査結果報告と
して諏訪研究室生による報告と諏訪教授に
よる調査結果分析の報告「雇用からみた少
子高齢化問題」を行いました。
報告の調査概要は以下の通りです。

・調査形式―WEB調査(株式会社マクロ
ミル)

・調査時期―平成21年10月16日(金)～19日
(月)

・調査対象―調査会社登録モニター(有効
回答者5、357名)

・調査内容―質問数全35問



シンポジウム会場風景

この調査内容の全35問のうち、「Q21 家庭生活に関する考え・意識(25項目)」

「Q22 少子・高齢化に関する考え・意識(25項目)」が人口オーナスに関する内容を含むものです。このQ21・22のアンケート調査結果に対し、単純集計・単純集計細分化・クロス集計・テーマ分析し、その結果が報告されました。

報告の分析の概要は、以下の通りです。

①晩婚化・晩産化により育児期と介護期の重複による負担が重なること(オーナス・リスク)についても考えなくてはならない

②少子高齢化時代において誰がどれだけコストを負担するかは大きな課題

③今後の労働力不足において、女性活用は急務でその余地は大きいですが、労働力として外国人を受入れることには否定的である

諏訪教授による雇用の側面からみた分析では、若者が結婚しなくなったのには、男性における「非正規雇用」の広がり、女性における「正規雇用」としての戦力化が影響している。さらに、地域格差もかなりあり、能力開発は地域格差を解消する際の重要な課題であると指摘されました。

本調査の結果・分析の詳細については、近日中に諏訪研究室から公表される予定であります。

(堀江慶子)

プログラム紹介

政策創造研究科には現在、3つの創造群、9つのプログラムに沿って11のゼミが設けられています。専門分野もさることながら、それぞれのゼミの活動内容も実に様々です。どのゼミがどのような活動をしているのか。ここでは各ゼミの所属学生が、その活動内容について紹介してゆきます。

公共政策群

雇用政策プログラム

諏訪ゼミ

当ゼミは日本でも数少ない雇用・キャリアの専門研究家集団で、約20名の修士・博士課程メンバーが地域雇用政策・キャリア政策等の分野を幅広く研究しています。日々の学習に加え、年2回の春期・夏期合宿では大学セミナーハウスで熱い議論と交流を行っています。今年度は人口オーナス問題についての大規模な定量調査、企業内人材育成実務家によるキャリアインテグレーション研究会の立ち上げ、シンポジウム(キャリア・アセット・マネジメント)開催等、学内外への発信にも精力的に取り組まれました。キャリアが財産となった21世紀において、当ゼミの研究分野の社会的役割はますます重要となったと自覚し、ゼミ員一丸となって精進する毎日です。

(鈴木美伸)

人口・経済・社会・生活政策プログラム
小峰ゼミ

小峰ゼミは岡田ゼミと合同で行っています。各週で2人ずつ、それぞれ個々の研究に関してプレゼンテーションを行い、みんなでプレゼンテーションの内容についてディスカッションを行うという形式で進めています。少人数で丁寧な指導をしてもらえるのが小峰・岡田ゼミの特徴です。小峰先生は非常に文章を細かく、ゼミ生は丁寧でわかりやすい文章を書くために奮闘しています。固いゼミと思われがちですが、時には息抜きもします。夏には、富士セミナーハウスにて合宿を行いました。その際には、研究だけでなく近隣の観光産業の見学と称し、博物館や河口湖、カチカチ山のロープウェイに訪れ、ご当地グルメを堪能し、日頃の研究の疲れをリフレッシュすることもしています。

(堀江慶子)

岡田ゼミ

岡田研究室の研究テーマは、「人々の生活にかかわる政策のあり方」です。

「生活」と聞いて、また「人々の生活にかかわる政策」と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。生活とは、広辞苑によると、「生存して活動すること、世の中で暮らしていくこと」だそうです。思い浮かべることは、その人の置かれている状況により千差万別だと思います。岡田研究室は、そのようなことを研究しています。今のご

時世、岡田研究室の研究テーマは、深刻です。そのような状況ですが、週1回のゼミは小峰ゼミと合同で、ゼミ以外にも、研究室で岡田教授と、研究について、また生活政策について話したり、たまには、おしゃべりしたり、和気あいあいと日々研究しています。

(鈴木朋子)

政治・行政プログラム

武藤ゼミ

武藤先生は温和で院生への面倒見のとても良い先生です。ゼミでは院生に必ず適切なアドバイスがいただけます。また望む院生にはお忙しい中、個別に時間を割いてご指導をしてくださいます。メールの返信も内容が温かく早いのです。ゼミ生のことを常に気にかけて、いろいろと声をかけてくださる父親のようなとても頼れる先生です。

そんな武藤先生のもと開かれるゼミには毎回20人前後の参加があります。時には外部の有識者を招きます。ゼミは武藤先生を慕って行政や政治関係者などの社会人も多く、人生経験や実務経験からのゼミ生同士のコメントもとても勉強になっています。ゼミでは報告や質疑が活発に行われています。ゼミ終了後は有志での懇親会も行われます。他のゼミ生の参加も大歓迎です。

(宮川正文)

申ゼミ

申先生は比較行政研究が専門分野です。人となりは研究の初歩的な質問にも丁寧に時間をかけて親切に教えてくださいます。その対応はどの院生の方に対しても変わらないと思います。韓国ではご自身が国際学会で発表するという多忙な日程のなか、院生の行政視察へつきあつて通訳までしてくださいました。ゼミ生のことを考えてくださるとも優しい先生です。

申ゼミは院生2名のこぢんまりとしたゼミです。個別指導はその分、丁寧に行われています。多様な視点を得るために武藤ゼミと合同でゼミを行うこともあります。申ゼミでは韓国での国際学会への参加や武藤ゼミと合同でゼミ合宿を行うなど勉強会も和気藹藹と行われています。(宮川正文)

地域産業政策創造群

地域産業政策プログラム

岡本ゼミ

毎週行われるゼミは、ゼミ生15名(修士課程8名、博士後期課程7名)とOBが多数参加してくれるので賑やかです。岡本義行先生の研究テーマは企業論、産業論、地域経済論です。日本およびイタリアを中心としたヨーロッパの中小企業戦略や地域コミュニティの活性化に関する研究も多数されています。

ゼミでは、社会科学の基本書を輪読する

とともに、修士論文や博士論文に向けた研究発表を定期的に行っています。また、ゼミ生に共通する課題である、量的・質的分析、調査法、研究方法など方法論の講義とディスカッションを行っています。さらに、

地域経済の概念を理論的に整理し、新しい理論的フレームワークを議論しています。理論的整理には現状に関するデータや情報が必要であり、国内外の視察や調査(イギリス、イタリア、七尾市、諏訪市、香取市、伊那市、東中野商店街ほか)も行っています。(那須田摩美)

CSR政策プログラム

北原ゼミ

北原ゼミでは企業の社会的責任(CSR)活動について3人のゼミ生がそれぞれの研究テーマを持ち、学んでいます。2名は社会人で1名は上海からの留学生です。

北原ゼミにはまだ先輩の方がおられないので直接教えを乞ったり、様々な情報を頂くということができないので一年生ゼミ生同志で連絡を取り合い情報交換しています。ゼミの講義は、ほぼ隔週毎にテーマにそつて文献を用いて行い、それぞれのテーマにそつて北原教授の指導のもと討議しながら進めています。

2009年は地方の中小企業訪問を他のゼミとの合同で行い、夏季ゼミ合宿を果たしました。

また昨年11月、12月にかけて有力企業6

社を訪問し、部門責任者のインタビューを行いCSR活動の現状など、現場での本音を窺う貴重な資料を得ました。(秦悦子)

中小・ベンチャー・起業家プログラム
坂本ゼミ

坂本ゼミは坂本光司教授のもと16名で構成されています。坂本教授は現場派の教授です。で全国どこにでも出かけていきます。特に日本の中小企業を元気にしたいという思いが強く、現在では6,300社ほど訪問している実績の持ち主です。その中でも心に残った企業を記した『日本で一番大切にしたい会社』は大変有名な本となっています。

その教授のもとです。ゼミ生も沖縄から福島まで各地に伺いました。いやいや日本だけでなく海外にも農業視察や商業視察に行っています。

ゼミは学校の活動のみならず、時間外で障害者雇用、弱者に優しい企業、モチベーションの高い会社、農業ビジネスなどの研究会を有志で立ち上げ調査、研究し報告書や本にまとめています。

やる気、元氣、パワーのあふれた集団です。是非一度足を運んでみませんか。(平松きよ子)

都市政策文化創造群

都市政策プログラム

黒川ゼミ

黒川研究室では、人の動きは地域・社会にどのような影響を及ぼすのかをテーマに研究します。しかし、ゼミのやり方にはこだわりがあります。各自が調べた事(得意な分野や興味あるテーマ)に対して、先生や先輩方(先生に加え先輩やOBの方々も)プロとして活動されているので、色々な知識やノウハウを持つてらっしゃいます。

から最新の情報や研究に対する考え方を指導して頂き、一定レベル以上の知識や考え方を習得した上で授業を行っています。

ゼミで扱うテーマは、まちづくり、地方分権、広域連携、地方財政、自治体のあり方、中心市街地の活性化、社会資本整備、IT、農村のあり方、首都機能移転、事業評価、税金、料金論、規制緩和等です。(井嶋充憲)

都市文化創造プログラム

増淵ゼミ

増淵ゼミでは、地域ブランドや都市文化、サブカルチャーなどを使った地域活性化について増淵先生の指導のもと研究しています。

修士1年生10人、2年生4人、博士2人と人数が多いため、今年ゼミ活動を学年ごとに分けて行いました。1年生のゼミは主に隔週で開かれ、『価値を創る都市へ』

(総合研究開発機構)、『クリエイティブ都市論』(リチャード・フロリダ) 2冊の文献の輪読や各々の研究報告を行い、指導を受けています。一方、二年生のゼミも隔週で開かれていましたが、皆さんお仕事が忙しく研究内容について個別で相談に行くことがほとんどでした。

その他、フィールドワークとして夏には新宿へ行ってその文化的変遷を学び、11月のゼミ旅行では伊豆下田へ行って観光振興策について考察しました。

若さと個性にあふれたゼミです。■

(横井友美加)

都市空間創造プログラム

恩田ゼミ

当ゼミでは、隔週の水曜日と土曜日にゼミが開催されます。先生の中で一番若い恩田重直先生は、温厚なお人柄であり時に厳しく指導をいただいています。

「河川再生のあり方」や「地域における観光の役割」、「密集市街地の形成」、「映像を通しての観光資源」など様々な研究をテーマとしているゼミ生一人一人に対して、真剣に向き合っており、フィールド調査の方法や地図、古地図、資料などの分析を分かりやすく的確に指導して頂いています。

毎年のゼミ合宿は、目下のところ重要伝統的建造物群保存地区を中心に視察を行っています。沖縄県の竹富島をはじめ、宮崎

県の飴肥をゼミ生と共に、古地図と現在の地図をもつて、歩き回ります。一度は恩田ゼミに足を運んで下さい。■(稲川貴之)

コラム 学内紹介 ①自習室

明るく開放的な政策創造研究科の自習室には、他方面から視察が訪れるそうです。

「一体なぜ？」岡本さん(事務)横井さんと3人で他研究科自習室の視察に行きました。

自習室に入るなり「うちの方がいい。」

3人同時に頷きました。

研究科自習室は、静かで、じっくり研究をするといった面では適していますが、個々に仕切られているため、少し暗い感じがしました。さらに驚いたことは、室内での食事が禁止されていたことでした。

政策創造研究科の自習室では、飲食は自由です。ご飯を食べながら楽しそうに打ち合せや、カップヌードル片手に勉強している姿が頻繁に見られます。働きながら学んでいる人が多いためここで飲食できることは時間の節約にもなっています。

静かな環境で、じっくり勉強したい人には、8階に共同自習室があります。こちらは、机が整然と並んでいます。

自習室は学生たちが管理していく場所です。これからも、お互いが学習しやすいように、モラルを持って活用していきたいと思っています。■(那須田摩美)



ラウンジ (6階)



政策創造研究科院生研究室 (4階)



政策創造研究科研究室本棚 (4階)



大学院共同研究室(8階)

コラム 市谷LIFE ①ランチ

Au Pied de Cochon(オージュピドクシモン)

安信ビル（政策創造研究科のあるビル）から、徒歩1分未満。赤いテントとブタのキャラクターが目印のカフェ&ティールーム。

道路反対側には外堀があり、晴れた日には外を眺望しながら美味しいコーヒーを片手にゆっくりとした時間を過ごせる場所です。店内は、こ洒落っていてクラシックが流れるような落ち着いた空間。お一人でも、デートでも、友達ともオススメですが、一人で自分の研究について考えるにもなかなかいい環境だと思います。

場所柄、日仏系のフランス人や近隣に住む老夫婦にワンちゃん連れのお客さんが多いこともこのお店の特徴です。

また、店員さんがサッカー好きなのか、テレビで流れる映像の多くが海外のクラブチームの試合で、クラブチーム同士が凌ぎを削る攻防戦を観戦出来ます。サッカー好きで知られる黒川先生も時々利用されるとか。

メニューに関して

高温・高圧製法で淹れたコーヒーならではの味わい深いコクと香りの本格的エスプレッソやアレンジ豊富な紅茶が頂けます（テイクアウト可）。フランスパンや（バ



店内：手前と奥に席がある



サンドウィッチセット ¥900-



Aupied de Cochonお店前



カウンターとショーケースと店員さん

ケット）を使った日替わりのサンドウィッチが人気メニューの一つとなっており、仕事帰りの女性には日替わりのディナーセットが人気とのこと。

また、タンブラーを持参すればタンブラーに入れて頂けるので、時々お店オススメのエスプレッソコーヒーをタンブラーに入れて頂いてから講義を受けることもあります。

私が、頼んだメニューは人気の日替わりサンドウィッチセット900円（スープもしくはサラダ、コーヒーもしくは紅茶）。この日のメニューは、「スクランブルエッグ・マカロニのマヨネーズあえ・ハンバーグエッグサンド、アボガドのグリーンサラダ、コーヒー」でした。

ハンバーグエッグサンドは、ハンバーグを挟んでいてボリュームがありハンバーガーのようですが、中はしっとり外はサクツとしていてパンそのものの美味しさもあります。男性でもお腹は満たされる充分な量です。

スクランブルエッグは、中にチーズが入っていたのもあり、とろりふつくらふわフワしていました。スクランブルエッグやアボガドのグリーンサラダは、女性にも満足して頂けると思います。

学校から近いうえにキレイな店員さんがお待ちしているので、まだ行かれたことのない方は一度行かれてみてはいかがでしょうか。 ■ (井嶋充憲)

新着情報

シンポジウム・研究会等

3月20日(土)

札幌学院大学地域活性化フォーラム

「地域活性化のブランドデザインと協働のプラットフォームづくり」

時間ー15時00分ー16時40分

17時00分ー18時00分(交流会)

場所ー札幌全日空ホテル24階「白楊」

主催ー札幌学院大学大学院

地域社会マネジメント研究会

3月22日(月・祝)

第3回かながわ非営利組織セミナー

NPO・市民社会の未来を築く

「市民が政治にかかわる3つのヒント」

時間ー10時30分ー16時分

場所ー神奈川県立

地球市民かながわプラザ

主催ー財団法人かながわ国際交流財団

学内イベント

3月24日 学位授与式

3月27日 新入生(M1)対象のオリエンテーション

ーシヨ

4月3日 入学式(入学式後、新入生+M2対象のオリエンテーション)

4月8日 授業開始

編集後記



編集委員の井嶋です。政策創造研究科では、皆様が多様な分野・視点から研究や活動を

されていらっしゃいます。その様子をこうしてニューズレターとして皆様に情報発信していくことで、お互いが刺激し合い知的欲求を満たしながら皆様と共に勉学に励めたらと思っております。また、ニューズレターを通じて、以前まで参加不可能だったシンポジウムや他のゼミや研究に対して情報を得ることが可能となりました。皆様のニーズに合わせて、ニューズレターをご利用して頂けたらと考えております。

(井嶋充憲)



人口オーナス研究会で幹事もしてきます堀江です。今後、様々な政策創造の情報を発信していききたいと思います。読者の皆さまの中で、耳寄りな情報をお持ちの方がいらつしやいましたら、ぜひぜひご提供をよろしく願います。個人的なことになりませんが、ニューズレターがコミュニケーションツールの一つになればと思っております。大食いダイエッターの私としては皇居も近いことですし、ウォーキングあるいはジョギングの仲間がみつければと思ったりしています。

(堀江慶子)

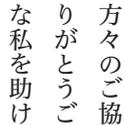


扉の挨拶を致しました鈴木美伸です。創刊号は如何でしたか？最後までご覧頂き有り難うございました。私は人事コンサル、大学教員、大学院生と三足のワラジなのですが、今回の原稿書きは他の仕事とぶつかりまくってサウナ風呂のように熱い日々でした。編集後記を書いている今は、ちょうど大学院の修士論文中間報告の最終日で、まつたり風呂上がり気分です。これからもロームの職人に負けない手作り感たっぷり楽しいニューズレターにしていきたいと思

います。(鈴木美伸)



浜松から新幹線通学しています那須田です。若手編集員のママ年齢ですが、学割をフルに使い学生生活を楽しんでいます。しかし、東京では中高齢学生が多いせいか『学割(25歳まで)』になっている音楽会もあり残念です。耳よりな学割情報がありましたら、お知らせください。創刊にあたり、恩田先生、事務、院生、編集員など多くの方々のご協力をいただきました。本当にありがとうございます。これからも、ドジな私を助けてください。(那須田摩美)



今回、編集作業というものを初めて行うにあたり、多くの方に迷惑をおかけしました。これが、色々学ぶことができました。これか

ら、皆さんに楽しんでいただけるような情報をどんどん発信してゆきます！よろしくお祈りします。(横井友美加)



増淵ゼミに所属しております浅田です。今回はあまり参加することが出来ませんでした

が、これから、学生の皆さんがこの研究科に来て良かったなあと改めて感じる情報発信が出来ればと考えております。多分役割としては、私はあまり真面目な方面ではなく、風変わりなことを書いていくつもりです。(笑)また長期履修生の為、まだまだ在学していく予定ですので、多くの学生同士のコミュニケーションがとれる事などもやっていきたいと思っております。どうぞよろしくお祈りします。(浅田眞澄美)

謝辞 本ニューズレターは、法政大学サステイナビリティ研究教育機構による教育研究高度化のための支援事業の成果の一部です。ここに記して謝意を表します。

政策創造学ニューズレター第1・2合併号 編集・発行

法政大学大学院政策創造研究科内

政策創造学ニューズレター編集委員会

(浅田眞澄美、井嶋充憲、鈴木美伸、

那須田摩美、堀江慶子、横井友美加)

発行ー2010年2月28日